

抗不安薬

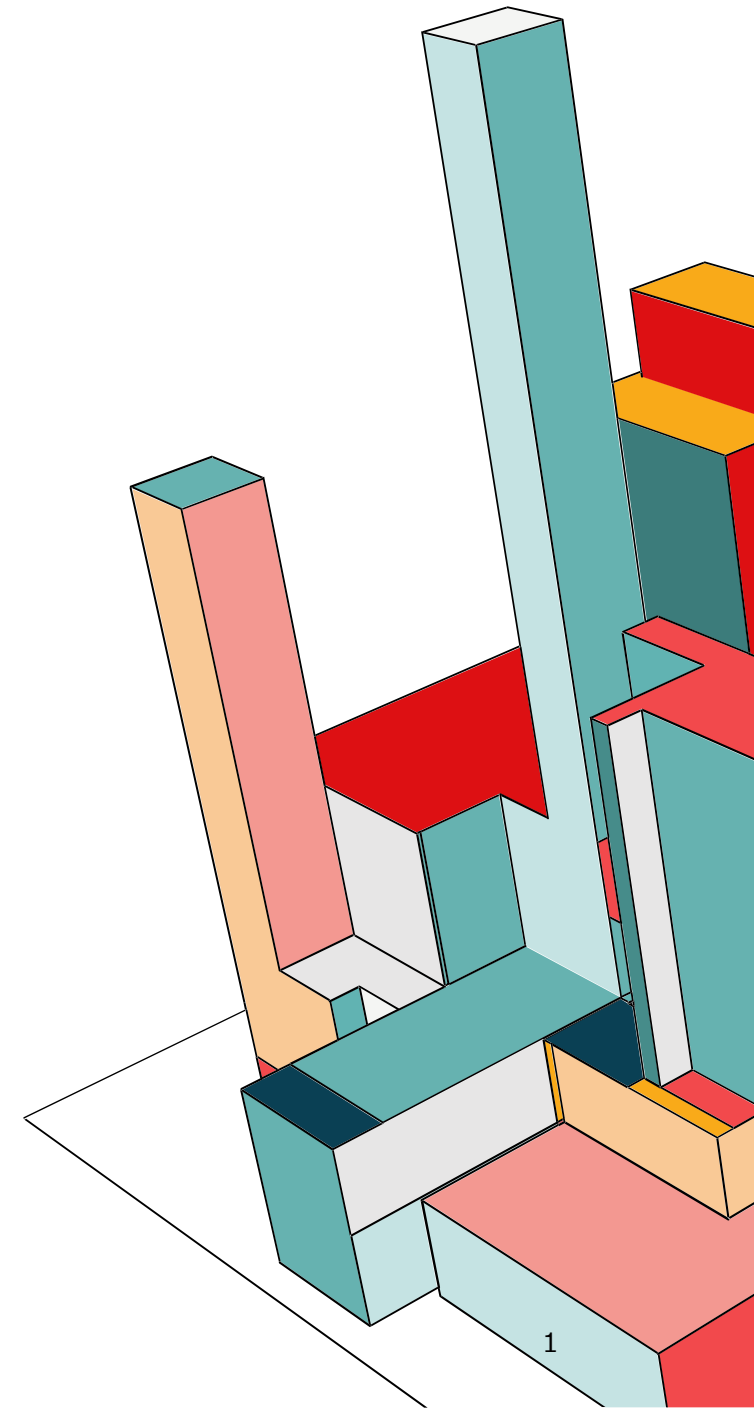
(ベンゾジアゼピン系の解説) ※最近では使用を控える傾向あり。

適応：神経症、疾患によらず不安・緊張状態、睡眠障害

作用機序：GABAの作用を増強する（アルコールと共通）

副作用：眠気、ふらつき、脱力、薬物依存（処方薬依存）

例：エチゾラム、アルプラゾラム、ロラゼパム、ブロマゼパムなど



睡眠薬（睡眠導入剤）

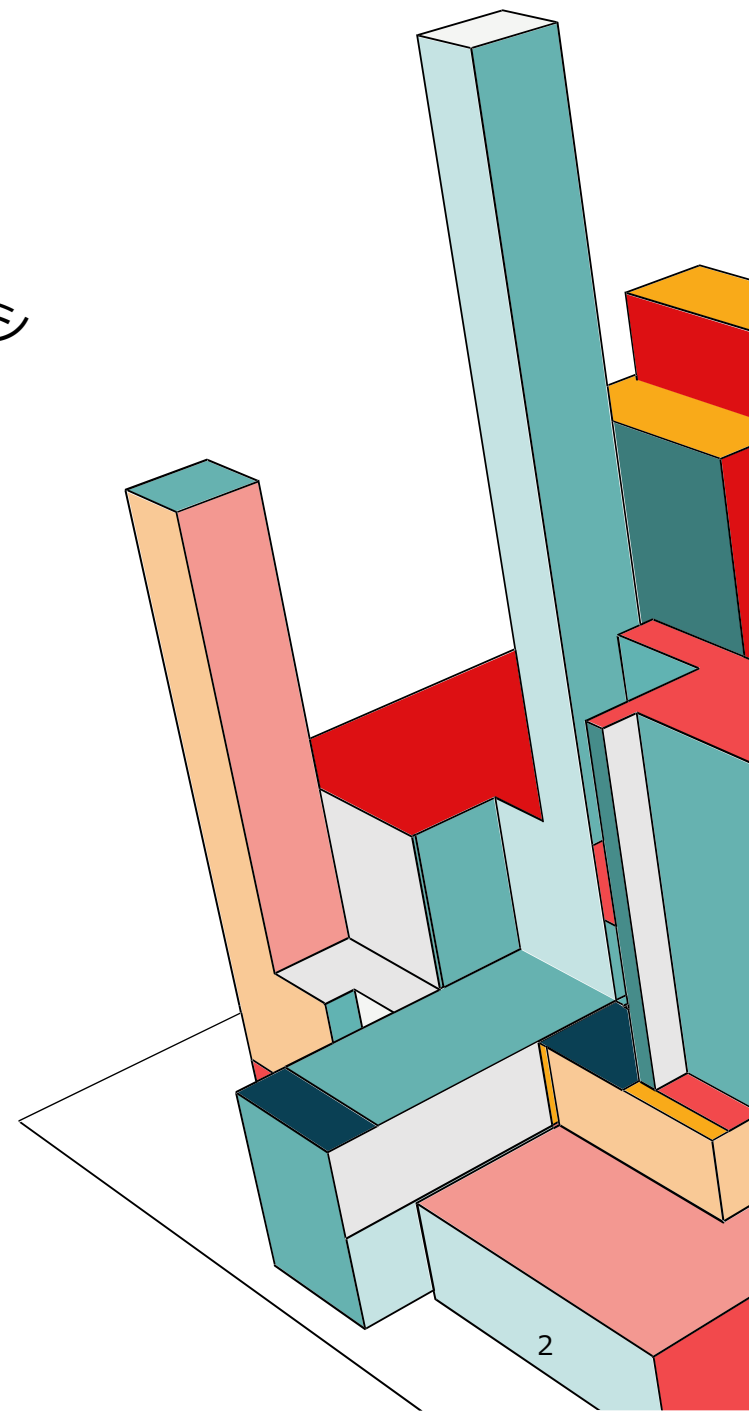
比較的新しいタイプの薬剤として、睡眠リズム調整薬、他の受容体（ヒスタミン、オレキシン受容体等）に効く薬剤があり、主として使用されるようになっている。

※従来から存在する睡眠作用のある抗うつ薬が睡眠薬として使われることも多い。

適応：睡眠障害（入眠困難、中途覚醒、早朝覚醒、熟眠障害）、興奮

副作用：持ち越し効果、依存、離脱症状、反跳性不眠、記憶障害

例：エチゾラム（抗不安薬と共通）、ゾルピデム、ロゼレム（商品名）、デエビゴ（商品名）、トラゾドンなど



抗認知症薬

Alzheimer型認知症の薬物療法としてドネペジル（アリセプト）を含めて、4つの薬（抗認知症薬）が知られている。その効果は症状進行の抑止または改善であり、病理の進行を止めるという根本治療ではない。また、原因物質であるアミロイドを除去するしくみを持つレカネマブ（商品名：レケンビ）が承認され、国内でも使用が開始されている（脳の浮腫や微小出血などの副作用が指摘されている）。意欲・自発性低下、感情障害、幻覚妄想状態、行動障害を含む周辺症状（行動心理徴候）に対しては抗精神病薬などが使用される。

（代表的薬剤“ドネペジル（アリセプト）”について）

適応：アルツハイマー型認知症（の進行抑制）

副作用：吐気などの消化器症状、徐脈・心ブロックなど

作用機序：神経伝達物質であるアセチルコリンを分解する酵素（アセチルコリンエステラーゼ）を阻害する作用（アセチルコリンを増やす作用）

